

2. 養育環境が親子のQOLと子どもの心身の健康と発達に及ぼす影響に関する国際比較研究

榊原 洋一（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター）

1. 国際比較調査（日本・タイ・ベトナム・中国）

（1）本年度の報告内容の概要

本研究は、子どもと親子の生活の質や精神的健康を測定する尺度を使って、日本国内 3 地域の地域格差を比較検討するとともに、東南アジアの 3 か国（タイ、ベトナム、中国）において同様の調査を行い、国際格差を検討することを目的として開始された。さらに QOL や精神的健康に影響を与える因子を同時に測定し、QOL や精神的健康に影響を与える因子の解明も目的としている。今年度はさらに初年度の対象者（5 歳）に対して 2 回目の質問紙調査を行い、QOL や精神的健康の年次変化をみるとともに、そうした変化に生育環境が及ぼす影響について調査を行っている。2 時点での QOL や精神的健康度とそれに影響を与える因子を検討することで、QOL や精神的健康度と生育環境との間の因果関係についての洞察を深めることができることを期待している。

2 回目の調査のデータは現在分析を開始したばかりなので、本報告書では、中国（データ整備中）以外の 3 か国間の、QOL や精神的健康の国格差について報告する。

（2）調査対象

調査対象の国別、性別分布は表 1 のとおりである。男児 6 1 0 名、女児 5 5 4 名であり総計 1 2 2 7 名の 5 歳児が対象となった。なお 6 3 名は記載がなく性別が判明しなかった。

表 1 対象児童

	女児	男児	性別不明	計
日本	2 5 8	2 8 6	1 3	5 5 7
ベトナム	2 1 1	2 2 0	3 7	4 6 8
タイ	8 5	1 0 4	1 3	2 0 2
計	5 5 4	6 1 0	6 3	1 2 2 7

対象児は、地域の保育園児を対象としたことと、国によって就学年齢の違いがあるため

に、平均月齢では日本76.0か月、ベトナム70.3か月、タイ66.3か月と平均で最大10か月の差があった。

(3) 調査結果

①子どもの QOL の国格差

昨年の本報告書に記載したように、日本国内では子どもの QOL の地域格差は認められなかった。しかし、3か国を比較すると QOL の6つの領域すべてに有意の国格差が認められた。

図1に各国の QOL の6領域の平均値の比較結果を、また表2に有意差（一次配置分散分析、多重比較、有意水準<.05）のあった国を示す。

図1 子どもの QOL の3国比較

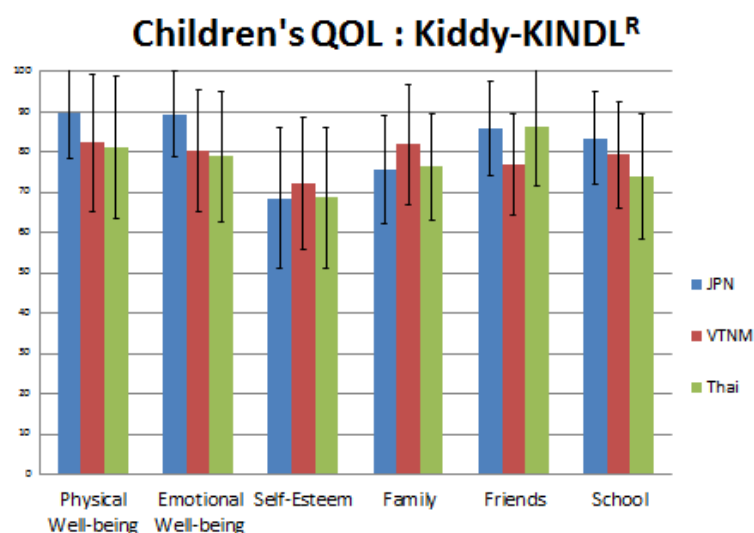


表2 有意差の認められた領域（p<.05, 一元配置分散分析、多重比較結果）

QOL 領域	有意差の認められた国ペア（高値ほど QOL が高い）
身体的健康	日本>ベトナム、日本>タイ
情緒的健康	日本>ベトナム、日本>タイ
自尊感情	ベトナム>日本、ベトナム>タイ
家族関係	ベトナム>日本、ベトナム>タイ
友人関係	日本>ベトナム、タイ>ベトナム
園生活	日本>ベトナム>タイ

図1および表2に結果から、以下のようなことが明らかになった。

日本は6領域のうち、自尊感情と家族関係を除く4領域で、3国の中で有意にQOLが高かった。ベトナムは、自尊感情と家族関係に関するQOLが他の2か国より有意に高かった。

タイは唯一友人関係においてベトナムより高いQOLを示していた。

3か国とも、自尊感情のQOL得点が、他の5領域に比べて低い傾向が認められた。

こうした差異に影響を与える因子については、他の因子との関連をみないと何も言えないが、身体的、情緒的健康を含む4領域で高い得点を得た日本の子どもが、それらのQOLで日本より低いベトナムより低い自尊感情を示したことは、自尊感情に関する従来の報告結果と一致する。西洋的価値観をもとに作成されたQOL尺度を使用したことが関係している可能性を、3か国とも自尊感情領域が他の領域より低い傾向にあることや、日本と類似した文化的背景（仏教、米作など）を持つタイでも日本同様低値であることから推察できる。

②子どもの行動上の問題（SDQ）の国格差

QOL同様に、日本国内では地域差の認められなかった行動上の問題に関する尺度(SDQ)の得点にも3国間で有意差が認められた。SDQは子どもの行動上の問題（と長所）を25項目の質問で得点化する尺度で世界中で広く使用されている。

QOL同様に、3か国のSDQの平均値の比較結果を図2で示し、有意差のある国のペアをSDQの5つの下位領域ごとに表3に示す。

図2 SDQの5つの領域ごとの国別平均値

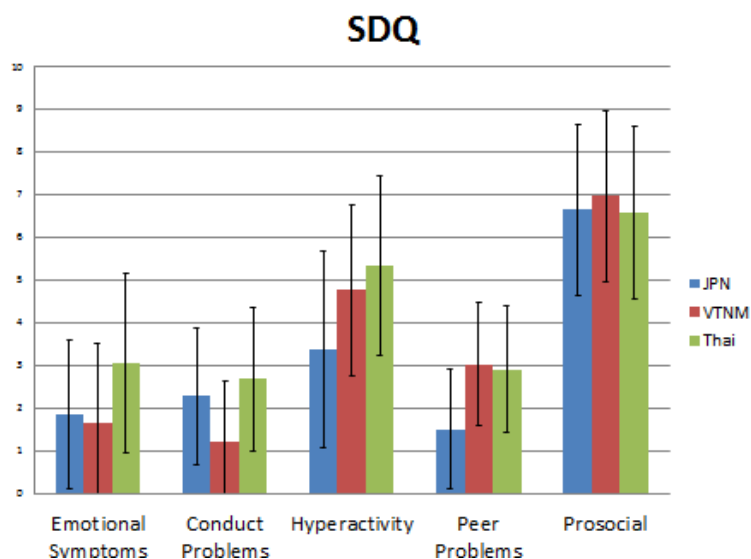


表3 SDQ 下位領域の平均値に有意差のあった国のペア

(一元配置分散分析、有意水準<.05、多重比較結果)

SDQ 領域	有意差の認められた国ペア (向社会的行動以外は高値ほど問題多い)
情緒的問題徴候	タイ>ベトナム、タイ>日本
問題行動	タイ>日本>ベトナム
多動・不注意	タイ>ベトナム>日本
友人関係の問題	タイ>日本、ベトナム>日本
向社会的行動	ベトナム>タイ

本結果もその背景にある因子の解析を待たなければ、何が有意差をもたらしているのかわかりかねないが、日本のデータの解析でも明らかになった、子ども自身の QOL と SDQ の間の有意の相関関係 (昨年度報告書参照) が、他の 2 国においても成り立つことを示唆している。実際たとえばベトナムでは、SDQ の情緒的問題行動と QOL (KINDL) の身体的健康とのあいだに比較的強い有意の負の相関関係 ($r=-.446$)、情緒的健康、園生活の間に有意の弱い相関関係 ($r=-.269, -.224$) が認められた。またタイにおいても、SDQ の情緒的問題行動と QOL の情緒的健康の間に比較的強い有意な負の相関関係 ($r=-.454$)、また SDQ の問題行動と QOL の情緒的健康、自尊感情、家族のあいだに弱い有意の負の相関関係 ($r=-.211, -.219, -.235$) が認められている。QOL と SDQ との関連についてはさらに検討を加えてゆきたい。

③注意欠陥・多動症状の国格差

SDQ の中にも含まれているが、本研究では子どもの精神的健康をより深く探求するために、注意欠陥多動性障害の診断の補助に使用されている DuPaul の尺度を採用し、3 か国の注意欠陥・多動行動の比較を行った。

SDQ の多動行動の結果と同じく、DuPaul 尺度において、注意欠陥、多動ならびにその両者を合わせた総合得点すべてにおいて、3 か国の間に有意差が認められた。

男女でスコアに大きな有意差があるが、国と性別の間に交互作用は認められなかった。